

へき地・小規模校教育の一層の充実・発展をめざして

宮崎県へき地・小規模校研究連盟

会長 岡崎 裕也

(諸塚村立諸塚中学校 校長)

宮崎県へき地・小規模校研究連盟は、昭和34年より今日までの長きに渡り、本県へき地教育の振興、複式指導の充実・発展を図ることを目的として活動してきました。県内のへき地校及び複式学級を有する学校（現在75校）が加盟しています。本連盟では県内を10地区に分けて「支部」を編成しており、各支部においてへき地・小規模校の教育活動充実のために授業研究や情報交換等を行っています。

本会は、令和3年度、「全国へき地・小規模校研究大会 宮崎大会」の開催により、大きな節目を迎えました。この宮崎大会では全国へき地教育研究連盟が示した第9次長期5か年計画（研究主題「ふるさとに夢や誇りをもって未来の創り手となる子どもの育成」副題「～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実を目指して～」）に基づいた研究発表と協議が行われ、全国に発信した本県の実践に対して各所より賞賛の言葉をいただくことができました。令和5年度は、その5ヶ年計画の最終年にあたり、次年度から新たな『第10次長期計画』のもとに活動予定です。

本年度は、コロナによる活動制限も緩和され、諸活動の正常化、再開の動きに合わせ、へき地・小規模校教育に関する諸会議、研究会も実施される予定です。これまで、様々な課題を乗り越ったノウハウをいかしながら、より充実した活動へレベルアップしていく必要があると感じています。特に、隔年で実施されている県大会を、串間の地で実施する予定です。県内各地から多くの参加をいただき、へき地教育に関して有意な意見交換がなされることを期待しています。そして、本県のへき地・小規模校の特性を踏まえた研究が共に深められるよう、今年度も会員の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと考えます。

最後になりましたが、本連盟の事業推進に対して、日頃からご支援いただいております関係機関並びに関係者の皆様に深く感謝し、あいさつとさせていただきます。